

常なる磐

つねなる いわ seasonⅡ
令和3年11月5日(金)

◇ 山の学習にて (10/29 5・6年生 DAY キャンプ)

今年度の山の学習は、宿泊なしの DAY キャンプ。※10/29(金)実施
新たな試みであり、そのキャンプの様子を紹介したい。

一昨年までは常南小との合同、5年前までは常磐3校合同での実施から、初の
単独実施となった今回は、通常の5年生に昨年実施できなかった6年生を加えた
2学年での実施となった。児童18名の小さな団体であるが、教育委員会の取り
計らいで大型バスを手配してもらうことができ、密の回避も十分に対応できた。

① <火起こし体験>



火起こし器を使っての火起こし体験。
苦勞して、苦勞して、苦勞して手に入れた貴重な【火】は、次の炊飯活動に利用。

少人数であるがゆえ体験機会も多く、
十分な活動量を確保できたのは GOOD。

② <炊飯活動>



炉づくりの指導を受け、班に分か
れてテントサイトでの炊飯活動へ。

安全・衛生上の観点から、食材から
の調理を取りやめ、レトルトカレー
とアルファ米で対応。鉄鍋の洗浄時
間はこれまでの半分以下に短縮。



災害時の食事体験も併せて実施。
「アルファ米」の湯量は、説明表示よ
りも若干多めがよいと体験から学習。

レトルトカレーは個人で準備。
ゴミはまとめて職員が学校に持ち

帰り、「少年自然の家」に迷惑を掛けないように対応。

③ <野外活動>



早めの昼食を摂った後は、山林コースを歩いて「落ち葉スキー場」に移動。落ち葉スキー場は、ほぼ山頂にあるので、散策には十分な活動量。年寄りには、登り下りがかなりきついが、子供はすいすい。



落ち葉スキー体験。大規模校は2回程度の滑降経験も、本校は乗り放題。因みに左写真の彼は、1時間程度の活動時間内に15本を滑降。滑降のこつをつかみ、腕前は見違えるほどに上達。様になっているポーズは、自信の表れ。



落ち葉スキーから引き続いてフィールドアスレチック体験。ターザンロープもお手のもの。類似した野外体験活動が続いたことは、今後の検討事項。

子供は、散策・落ち葉スキーの疲れを見せずに、アスレチックを完走。何とも逞しきかな。



早めの昼食が午前11時頃、さらに17時から1時間強のキャンプファイヤーが計画されていたことから、ファイヤー前、腹ごしらえの軽食タイム。

その後、山の学習の目玉「キャンプファイヤー」へ。

夕方からの急激な冷え込みも、ファイヤーの炎で、身も心もほっかほか。

ファイヤー後は、家の方のお迎えで、楽しい思い出話付きの帰路に就く。

DAY キャンプを振り返ると、「想定以上の活動量の確保」「想定以上の学び・体験ができた」と総括できる。さらに、2学年での実施であればキャンプファイヤーも充実し、本校単独での山の学習も十分対応できると実感。

学習発表会(10/23)翌週実施の忙しい日程も、小回りの利く集団と担任陣の巧みな取り回しにより、ハンデを感じさせない実施となった。

今後、同様の方法で実施をするならば、十分すぎるほどあった野外活動の時間を短縮し、生み出された時間を使ってキャンプファイヤーのスタンプ(児童の出し物)をその場で考えるのもよい。そうすれば、事前の準備は極端に少なくなる。

結論:「山での学びは、全て山で行えばいい」ということ。今から来年が楽しみだ。

※キャンプファイヤーの写真は、撮影を写真屋が担当し、紹介はできないが、2学期保護者会の際には校内に掲示する。